

# 全国介護・終末期リハ・ケア研究会

## 2025年度 第二回研修会 アンケートについて

去る2月25日に開催いたしました「第二回研修会」、終了後に実施したアンケートにて、参加された皆様からご意見やご感想をいただきましたので、ご紹介いたします。また、当日の講師やゲストコメンテーターの皆様、ならびに研究会からのコメントも掲載しておりますのでご覧いただけますと幸いです。

皆様から頂戴したご意見・ご要望を踏まえ、本年9月に開催を予定しております「第13回 全国介護・終末期リハ・ケア研究大会」の企画・検討を進めてまいります。皆様のお申し込み、ご参加を心よりお待ちしております。

アンケートにご協力いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

2026年3月

全国介護・終末期リハ・ケア研究会

E-mail: [info@n-cerc.org](mailto:info@n-cerc.org)

開催日時 2026年2月25日(水) 19:00~20:35

開催方法 Zoom ミーティング

参加者 45名(うち研究会役員7名)

ご回答いただいた方々の内訳

アンケート 対象 38名(会員16名/一般22名)

区分)	会員	6	年齢)	20歳代	1	職種)	看護職	2
	一般	5		30歳代	3		介護職	3
				50歳代	5		リハ職	6
性別)	女性	6		60歳代	2			
	男性	5						(人)

- 設問
1. 実践に生かせるヒントやポイントはありましたか
  2. その具体的な内容は
  3. 検証「実際はどう? 実例の検証について」について
  4. 課題「終末期リハ・ケアをめぐる特別養護老人ホームの現状と課題」について
  5. 討議「“尊厳”を守り抜く対応とは」について
  6. 2026~2028年度に開催する研究大会参加のご意向
  7. 研究会へのご意見/ご要望/気になる点(各ご意見に回答)

## 1. 実践に生かせるヒントやポイントはありましたか

あった：12名    なかった：0名

## 2. その具体的な内容は（自由記載）

- ①客観的尊厳と主観的尊厳という見方でこれまで見ていなかったため、新たな視点をもたらえた（30代/男性/PT）
  
- ②タイトルテーマにとっても興味を惹かれました。この研修会を紹介された日より「身近にもあるかも」と、より主観的尊厳を気にかけるようになっていました。（50代/女性/介護職）
  
- ③尊厳にも「人間として」と「個人として」の2つの見方があること。医療・福祉の現場で、終末期リハ・ケアとは「尊厳」を守ったうえで「命」を守るという任務を遂行することが人生を全うする「命」を支援することだと感じた。（30代/女性/OT）
  
- ④私たちは、客観的尊厳を守るケアを行う中で、いかに主観的尊厳を守るケアを実践するか。（60代/女性/介護職）
  
- ⑤それぞれの専門職が常に対象者の尊厳のことを考え、行動すべきことが再認識できた。（50代/男性/PT）
  
- ⑥特養の事例報告を参考に終末期におけるリハケアのポイントに基づいて事業所のケアの実施状況を振り返ることをしてみたいと思いました。それができたら、次のステップで個別に定期的に振りかえり気づき対応力の向上につなげたいと思いました。（50代/女性/介護職）
  
- ⑦客観的尊厳と主観的尊厳についてこれまで聞いたことがなかったが、今回の研修を通して概念を理解できた。確かに、このように分けて考えると、尊厳についてより深く考えることができる。（50代/男性/PT）
  
- ⑧超後期高齢者の在宅介護において本人の希望、主介護者の疲弊で悩んでいたのがヒントになりました（30代/男性/PT）

⑨客観的尊厳と主観的尊厳について、具体的にどういうことかを整理できたこと。  
客観的尊厳に注目しがちだが、主観的尊厳も守れるようにしていきたい、患者さんに関心を寄せていきたいと改めて思いました。(50代/女性/看護職)

⑩その人らしさを拾いながら実現する未来 (20代/男性/OT)

⑪老年看護で大切にしていること自体が主観的尊厳であり、改めて重要な視点であると再認識した。(60代/女性/看護職)

---研究会より---

2025年の研究大会において、齋藤正彦先生より「客観的尊厳」と「主観的尊厳」をご提示いただき、当研究会としても尊厳を守るための実践を整理するうえでの大きなヒントを得ることができました。今回の学びを踏まえ、2026年/2027年に開催する研究大会にて、尊厳を守る視点を基盤にした認知症や身体的不活動への対応について具体的な提案ができればと考えています。

### 3. 検証「実際はどう？実例の検証について」について

①ご本人の背景が詳しくわかると、主観的尊厳についてもっと検討できそうだと感じた。どんな小学校教諭だったのかもヒントになると感じた。(30代/男性/PT)

②人間味溢れる感想が興味深かったです。(50代/女性/介護職)

③同じ職場の介護職の視点・意見を聞いてみたいなと思いました。また、他職種と協働していたら願いは叶ったのかなとも思いました。自分自身が働く現場以外でも、スタッフ都合で患者さんの行動を誘導してしまっているという実際も共感できた。スタッフの手が足りない中でも、患者さんの一つ一つの発言の真意を汲み取ろうとし寄り添うことが患者さんの安心につながると感じた。  
(30代/女性/OT)

④実例の具体的な内容を詳しくお聞きしたかった。(50代/男性/PT)

⑤起こしてというから起こすけどすぐに寝かせてという、そのうち奇声を上げる人が一人浮かびました。あの時にどうして差し上げたらいいのか、よい答えが浮か

ばなかったことを思い出しました。自分自身は臨時の応援要員でしたが、尊厳というより他の業務とのバランスを考えてました。ありがたいと癒される利用者の存在と、そうは言えない人の対応について、これについてはいろんな場面で思い当たり、過去に尊厳をどう守ればよいのか迷った自分の経験を振り返ることができました。改めて専門としてはどのような人にも人間愛をもって接することが重要だと思いました。研修会で発信された先生は、ずいぶん前にここを通過されたのだらうと思います。貴重な発信をありがとうございました。大変勉強になりました。(50代/女性/介護職)

⑥日常の臨床でのできごとを隠すことなく、正直に聴衆に伝えることができる講師に尊敬の念を抱きます。このことは、ディスカッションをおこなう前提として大切なことです。聴衆の共感を得て、一緒に考えていくことができる機会を提供していただき感謝しています。(50代/男性/PT)

⑦患者様利用者様へのケアと院内業務量による上手くケアできないもどかしさに共感しました。(30代/男性/PT)

⑧事例を客観的に、具体的に振り返る手法として面白いと思いました。自身で事例をまとめるだけでは見逃してしまいそうな、その時の患者さんの状態に応じて考えたこと、アセスメントしたこと、取り組んだことが時間の経過とともによくわかりました。(50代/女性/看護職)

⑨事例にて自身の経験と重なるところがあった。(20代/男性/OT)

⑩現実にはマンパワーの不足など困難も多いのだけれど、最初から無理と諦めるのではなく、尊厳という視点を持つ人を増やしていければ、よい変化を起こせることもあるのではないかと考えていました。(60代/女性/看護職)

---「検証」ケース紹介:田中 将人さんより-----

作業療法士の視点からの発言でしたので、生活に広く関わる看護職・介護職の方々には物足りなさがあったかと思います。複数職種での回答をまとめてお伝えしても良かったと振り返っています。日々の業務では、四六時中「尊厳」を意識している訳ではありませんが、人に対応するうえで最低限対応しなければならないこと、つまり「客観的尊厳」は誰もが実践していることだと思います。但し、それを実践・継続することが難しいと感じることも事実ですので、何に苦勞するのか、ど

んな工夫が良いのかなど、今後の研修会や研究大会にて症例報告を重ね、情報交換や情報の蓄積ができれば良いよいと思います。

当研修会では過去2回、同じ症例の経過を報告させていただきましたが、その資料をもとに、客観的な指摘（質問）を受けるという方法は、本当に言いたいことを引き出してくれるような気がしました。

皆様より、ご意見ご感想をいただけたことに心より感謝申し上げます。

---

#### 4. 課題「終末期リハ・ケアをめぐる 特別養護老人ホームの現状と課題」について

- ①ケアの方針を誰がどう決めていくかが重要だと感じた。(30代/男性/PT)
  
- ②多岐にわたる情報のまとめ方が勉強になりました。(50代/女性/介護職)
  
- ③事例①の写真はショッキングでした。医療的には普通かもしれませんが、「終末期…私の親なら、私なら」と考えてしまいました。部屋に緑や音楽、好きな香りがあったら私はベッドにいられるのか??自問自答していました。「意思疎通困難でも表情豊か」と判断できるだけ、その患者さんのベッドサイドへ向かい表情を確認したくさんの刺激を入力し表情変化を確認したのだと感じた。どんな刺激が快刺激になるのか、安楽に過ごせる環境を整えることが必要であり明日の臨床に繋げようと思った。(30代/女性/OT)
  
- ④お話が冗長で論点が絞りにくかったですが、事例に関しては同感できる内容ばかりで、どの施設も同じような課題を抱えていることが理解できました。  
(50代/男性/PT)
  
- ⑤非常に共感する部分が多く聴き入ってあっという間の時間でした。たった一人でどうすればいいのか。現場の職員にとっては、それが日々の課題で尊厳に思いを寄せるところまでどうつなげればよいか。事業所を巡視した時にいつも悩みますが、加賀先生のご発信をきいて、まずは現場の苦勞を認め自分も現場の一員として入居者の方へ関わるのが（たまに行く人が現場の困ることをしない・何が効果的か考えて動く・心構えも含めて）重要なのだと学びました。いつか、尊厳についての大事な話を聞いてもらえたら一人ずつでも気付きを増やしていけたらと思っています。(50代/女性/介護職)

- ⑥特別養護老人ホームの現状についてわかりやすく説明していただきありがとうございます。20年ほど前に特別養護老人ホームに非常勤で勤務していましたが、現在も20年前と同様であることに衝撃を受けました。それらはきっと、現場の職員だけでは解決できない課題であり、市町村・国レベルで議論する必要があると思います。(50代/男性/PT)
- ⑦特養の現状を知れて入所前までの段階から尊厳を意識したりハビリをしたいと思います。(30代/男性/PT)
- ⑧特養の介護をめぐる厳しい状況の一端を知りました。安全を守る、転倒・骨折を防ぐことと、身体拘束をしないこと、難しい中でも真摯に取り組んでいることが伝わってきました。きれい事ではなく、現場で何とかしようとしていることが事例を通して伝わってきました。(50代/女性/看護職)
- ⑨施設においても多職種連携にて尊厳が保たれることが学べた。(20代/男性/OT)
- ⑩介護は介護士の仕事と言うことではなく、看護師も機能訓練指導員も連携しながら支援できる体制がとれるといいと思いました。(60代/女性/看護職)

---「課題」講師：加賀 順子さんより-----

研修会に感想及び意見をお寄せいただいた皆様、ありがとうございました。  
私は理学療法士ですが自身の家族介護を通して、介護職にリスペクトを感じています。特養における介護の大変さを表すため、ADLごとの入所者全体の介護状況を円グラフで表しましたが、提示事例との関連付けが弱く、研究大会テーマの「尊厳」から少し離れてしまいました。そんな中でも、コメンテーターの皆様は、提示事例から「尊厳」に寄せてお話いただきました。誠にありがとうございました。

介護職からの信頼を得て、少しでも介護の質向上および介護期・終末期リハケアに貢献できるよう、今後も努力していきたいと思えます。

## 5. 討議「“尊厳”を守り抜く対応とは」について

- ①個人で自分が行うケアと、組織で取り組むところには大きな溝があると感じた。  
(30代/男性/PT)

- ②「忙しい」が言い訳にならない客観的なデータが見てみたいと思いました。  
(50代/女性/介護職)
- ③「忙しい」なかでも楽しく工夫しているチーム例を知りたいなと思いました。  
狭間を埋めるお話し上手な高齢介護福祉士を見つけてみようと思いました。患者さんが動くことに伴うリスクを許容・対応できるスタッフ育成や環境づくりが必要であると感じる。(30代/女性/OT)
- ④私の働く施設でも、「安全」が優位となり、利用者個々の「生活」に制限がありすぎています。言われる通り、安全が尊厳を脅かしています。安全も大切ですが、まずはご本人の意思を尊重する。だからといって、その意志に責任を押し付けるのではなく、尊厳を守りながら寄り添い支えることが必要であると思う。  
(60代/女性/介護職)
- ⑤客観的尊厳、臨床現場ではいろいろな都合で守り抜けてないと率直に感じました。この点についてはスタッフ間で共通認識を持つ必要があり、そのための定期的なミーティングなど、重要と思いました。(50代/男性/PT)
- ⑥高齢者に対する姿勢と親しみよりも敬いをとというのは大切だと思いました。  
言葉の使い方について私も気を使っています。  
事故を起こすのが怖くて起こせなくなるというお話から現場の育成環境を整えることが大切だと思いました。(50代/女性/介護職)
- ⑦大変勉強になる事柄が多かったです。シンポジストの皆さんは経験が豊富で、人間力があり、目指すべき尊厳を守りながらのケアについて、考える機会となりました。特に理学療法士の方は、年齢的に若いけれど、利用者さん・患者さんのことについて想像することができており、素晴らしい人財だと思いました。相手に思いを馳せる、相手のことをどれほど深く想像できるかが、尊厳を守り抜く対応に結びつくと考えています。(50代/男性/PT)
- ⑧疾患でなくその人を診ることを一層意識して日々の臨床業務に携わりたいと思いました。(30代/男性/PT)

⑨それぞれの立場で、それぞれの現場の状況を考慮しながら尊厳を守り抜く対応に取り組んでいること、自分の考えや価値観を見直す重要性に気づきました。

(50代/女性/看護職)

⑩尊厳とはその人のことを理解しようとする姿勢なのではないかと感じた。

(20代/男性/OT)

⑪多職種で対象にとってのより良い生活について考える事、話し合う機会が持てることが大切だと思いました。(60代/女性/看護職)

---「討議」ゲストスピーカー：吉岡 佐知子さんより-----

本研究会では、まず第12回全国介護・終末期リハ・ケア研究大会の内容を整理いただいたことで、尊厳について、主観的尊厳と客観的尊厳について理解を深めることができたこと感謝いたします。

「実例の検証」と「終末期リハ・ケアをめぐる特別養護老人ホームの現状と課題」では、私自身や自組織の中にある課題に気づく良い機会になりました。高齢者の言動を自分たちの都合の良いようにとらえてしまいがちなこと、マンパワー不足や安全を理由に尊厳を脅かしかねない現状があることを再確認しました。個別性に配慮した主観的尊厳をまもるためには、自分自身の捉え方や判断が本当に正しいのかを疑ってみることが必要だと感じました。また、当たり前のことを当たり前に行う客観的尊厳を守ることは老年看護では重要と考えていますが、忙しさを理由におざなりになっている現状もあり、アンケートにもあったように、自分一人で、自職種だけで解決しようとせず、多職種で検討・協働していくことが必要だと改めて感じました。

「討議」の時間はあっという間でしたが、職種を超えご意見がうかがえたことはとても有意義でした。尊厳をまもるために明日からできることを尋ねられました。やはり「関心を向け続けること」を一つ上げたいと思います。自分で伝えられるうちはまだ良いと思うのです。年を重ねていくにつれ、認知症が進行するにつれ、自分自身のことを伝えることが難しくなります。だからこそ、私自身が尊厳の視点をもって対象に関心を向け続けることが重要になるのではないかと強く感じました。

本研究会のように尊厳をきれいごとで終わらせない、現実をみて、その上でどうしていけばよいかを多職種の皆で考えられる、そのような機会は貴重です。参加させていただき感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

---「討議」ゲストスピーカー：秋山 みゆきさんより-----

「実践に生かせるヒントやポイント」としては、客観的尊厳と主観的尊厳という視点で考えることができ、「尊厳」という言葉がより具体的に理解できたように思います。客観的尊厳が守られてこそ、主観的尊厳が守られるのではないかと感じています。そのためには、客観的尊厳を守るための介護技術を高めていくことが、介護職に求められている専門性であると再認識しました。

「検証 実際はどう？」について、主観的尊厳を守るということは、年長者を敬うという心があれば特別なことではないようにも感じます。しかし実際、業務との兼ね合いの中で十分に対応できない場面もあるのが現実です。そのような中でも、折り合いをつけながら生活を支援していく努力が求められていると思っています。「尊厳という視点を持つ人を増やしていく」というご意見には大変共感いたしました。

「課題」で特養についてお話しされた内容は、まさに現場の実情を表しています。特別養護老人ホームでは入所基準が要介護3以上となったことで重度化が進み、以前のように様々な行事を行うことが難しくなっています。また、尊厳を守るという意味でユニットケアが推進され、個人を尊重するという考え方が強くなっていますが、その一方で集団での取り組みを行うことが難しくなっている現状について、疑問を感じることもあります。

「討議」については、看護学校1年生の時の病院長の講義で「医者は病気を診るのではなく、病気を持った人を診るのが仕事です」という言葉が思い出されます。介護も同じように、「日常生活に援助を必要とする人」を看る仕事なのだと考えています。人としての視点でかかわることが、“尊厳”を守り抜く対応ではないでしょうか。

本研究会主催の研究大会や研修会は、これまで2回ほど参加させていただきました。『介護期リハビリテーションのすすめ』の中にある「死体はケアの通信簿」という言葉は、私にとって介護の重要性を支える軸となっています。今後も学びを深める機会として、研究会に参加させていただきたいと思います。

---「討議」ゲストスピーカー：有坂 優さんより-----

尊厳について、主観的尊厳と客観的尊厳に分けて考えることで抽象的な概念がより具体的に考えられることが出来ました。約2時間の研修会を通して、内容は盛り沢山であった分、追っていくことが大変だった印象がありました。

田中さんの実際の症例に対してのフィードバックは、駆け足だった印象があり、まとめた資料を追っていくことが難しかったです。もう少し深堀できたらと思ったことと、以前にも同様の症例がディスカッションされたとのことで、継続的に参加していく必要があると感じました。

加賀さんの特養の事例報告については、リアルな現場の様子を話してもらえて、私としても共感できる点が沢山ありました。

討議では周りの方々が管理者をされている方ばかりで、また私とは違った視点であったり、様々な意見交換が出来て、勉強になりました。しかしその反面、話の論点がまとまらなかったのが、聴講していた方へはどうだったのだろうという不安がありました。

今回、討議に参加させて頂き、改めて学生時代の臨床実習で経験したことを思い出す機会を作ることが出来ました。実習期間中、主観的尊厳を大切にしている実習先の病院では当たり前だった院内環境、患者様 ADL 設定は、その後 PT になってからも幻のように叶えることは出来ず。また客観的尊厳について話すことすらも出来ず、まずは病棟の安全と円滑に臨床が実行することを第一に動いていたことに気付かされました。

私は今在宅支援の現場だからこそ出来る選択肢が増えました。今回の研修会で学んだことをまずは職場内で共有し、尊厳について周りの職員とも話せる環境作りを自ら実行していこうと思えました。今回は貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。また今後ともよろしくお願い致します。

---

## 6. 2026～2028 年度に開催する研究大会参加のご意向

参加予定 8名    参加を検討 3名

## 7. 研究会へのご意見/ご要望/気になる点

①尊厳に対する他職種の考え方や取り組み方を知ることができました。また、介護福祉士の考え方や視点、取り組みを他職種に伝える意義も理解できました。そして、発表資料のまとめ方も大変役立つものでした。今後、認定介護福祉士としての活動に役立つ貴重な時間となりました。ありがとうございました。

※今回の資料データは配布されますか？可能であればデータにて送付頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。(50代/女性/介護職)

---研究会より---

ご評価いただきありがとうございます。当日使用した資料につきましては、学会バンクにてご覧いただけます。お手数をおかけしますが、そちらからご確認くださいませようよろしくお願い致します。

②内容をお聞きすれば、【共通テーマ】終末期高齢者の尊厳は非常に重要であると認識できると思いますが、SNS等でこのテーマを目にして一瞬に興味を引くでしょうか？その意味でテーマが硬すぎて、重すぎる感は否めないと思います。一般の市民の目に留まるようなフランクかつキャッチーな表現になるとさらに多くの人に興味を持たれるように思いました。(50代/男性/PT)

---研究会より---

ご指摘いただいた通り、一連のタイトルやテーマは重く感じられるであろうものでした。研究会として、「終末期」「高齢者」「尊厳」などに焦点をあてようと話し合いを進める中で、ついついカッコリとした表現になりました。今後はより多くの皆様に興味を持っていただけるようなものにできるよう工夫します。

③もしも資料が共有いただけるようなら…時々見て振り返りたいのと、自分の所属内にもっとこの研究会や学会を知ってほしいと思っています。今回は、過去の自分の経験とつながる気付きや共感がたくさん得られました。遠く離れているところの方々のご発信に共感できることが沢山あって、とても満たされた気持ちになりました。大田先生の思想を引き継ぐというとおこがましいですが、しっかりと尊厳を考えて対応できる集団になっていきたいと思っています。

司会の先生ありがとうございました。要点の整理など導いていただいて理解が深くなるように感じております。とても勉強になりました。開催に関わられた先生方、皆様お忙しい中ありがとうございました。(50代/女性/介護職)

---研究会より---

ご評価いただき、ありがとうございます。資料につきましては前述の通り、学会バンクにてご確認ください。

④すばらしい研修を運営していただきありがとうございます。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。(50代/男性/PT)

---研究会より---

ご評価いただきありがとうございます。これからの研究大会ならびに研修会にもご参加いただき、率直なご意見やご指摘などいただければ幸いです。

⑤前回の大会の振り返りが端的にまとめられていて、大変わかりやすかったです。導入が良かったので、その後の展開に引き込まれました。(50代/女性/看護職)

---研究会より---

前回大会(昨年9月)は、皆様にお聞きいただきたい言葉が多く含まれていましたので、第一回研修会と同様に振り返りとしてまとめました。今後、この内容を

踏まえて認知症や身体的不活動への対応について提案できるよう進めたく考えています。

### 【研究会からのお礼のご案内】

あらためまして、2月に開催いたしました第二回研修会にご参加いただき、誠にありがとうございました。また、アンケートにて多くのご意見をお寄せいただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。

今回の研修会は、昨年9月以降に開催した研究大会および研修会の内容を踏まえ、それを実践に当てはめた場合にどうなるのか、また実践につなげるためには何をすべきかについて考えることを目的として企画いたしました。限られた時間ではありましたが、ゲストや講師の皆様のおかげで、キーワードである「尊厳」と実践との距離を、少し縮めることができたのではないかと考えております。一方で、構成や進行において至らない点が多々ございましたことお詫び申し上げます。

当研究会といたしましては、今後も大田仁史先生が提唱された「介護期」および「終末期」に対応するケアやリハビリテーションについて、具体的な実践を提案できるよう活動を進めてまいります。今後とも、皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

全国介護・終末期リハ・ケア研究会

#### 《今後の研究大会の予定》

共通テーマ「終末期高齢者の尊厳 守り抜くための実践と課題」

2026年9月 第13回 全国介護・終末期リハ・ケア研究大会 キーワード「認知症」

2027年9月 第14回 全国介護・終末期リハ・ケア研究大会 キーワード「不活動」

皆様とお会いできることを楽しみにしています。